

CSR報告書 2012

Part

ハイライト版



JFE ホールディングス 株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
<http://www.jfe-holdings.co.jp/>



JFEグループのCSR 2

社長メッセージ 3

JFEグループの事業と社会 5

特集1 製鉄と地球温暖化防止 7

特集2 環境都市を創る 11

特集3 エコシップの最先端技術 15

期待されるテーマと解決策 17

JFEグループの事業とCSR 19

地球環境の保全のために 21

社会の発展に貢献するために 25

JFEグループの震災復興支援 29

第三者意見 31

読者意見 32

グループ概要 33

編集後記 33

「JFEグループ CSR報告書2012」はJFEグループの持株会社であるJFEホールディングス(株)と、その事業会社の事業活動における環境側面および社会的側面について、基本的な方針・2011年度の活動内容および実績を報告しています。なお、本書の編集・制作にあたっては、環境省の「環境報告書ガイドライン2007」およびGRIの「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版」を参考にしています。

CSR報告書の報告・集計対象組織

●持株会社

JFE(ジェイエフイー)ホールディングス(株)

●傘下の4つの事業会社

JFEスチール(株)、JFEエンジニアリング(株)、ユニバーサル造船(株)、川崎マイクロエレクトロニクス(株)

※ユニバーサル造船は2012年10月1日にアイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドと合併し、ジャパン マリンユナイテッドとなる予定です。

※JFEホールディングスは2012年7月1日に川崎マイクロエレクトロニクス株式をメガチップに譲渡いたしました。

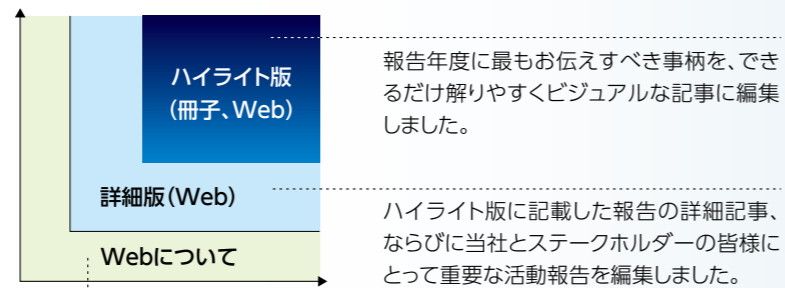
●各事業会社傘下のグループ会社

合計241社(連結子会社194社、持分法適用会社47社)

対象期間

2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日まで)の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや直近の活動報告も含んでいます。

報告メディアの考え方



環境データ集

CSR報告書2012の補遺として、環境への取り組みに関する各種データを掲載したデータ集(PDF)。

Webサイト 会社概要

JFEグループのグループ理念や、事業概要、コーポレート・ガバナンスなどを掲載したWebサイト。

Webサイト 株主・投資家の皆様へ

JFEグループの経営情報や、財務情報、株式・格付情報などを掲載したWebサイト。

JFEグループ TODAY 2012

JFEグループの経営情報や、財務情報、株式・格付情報などを掲載した冊子およびWebサイト。

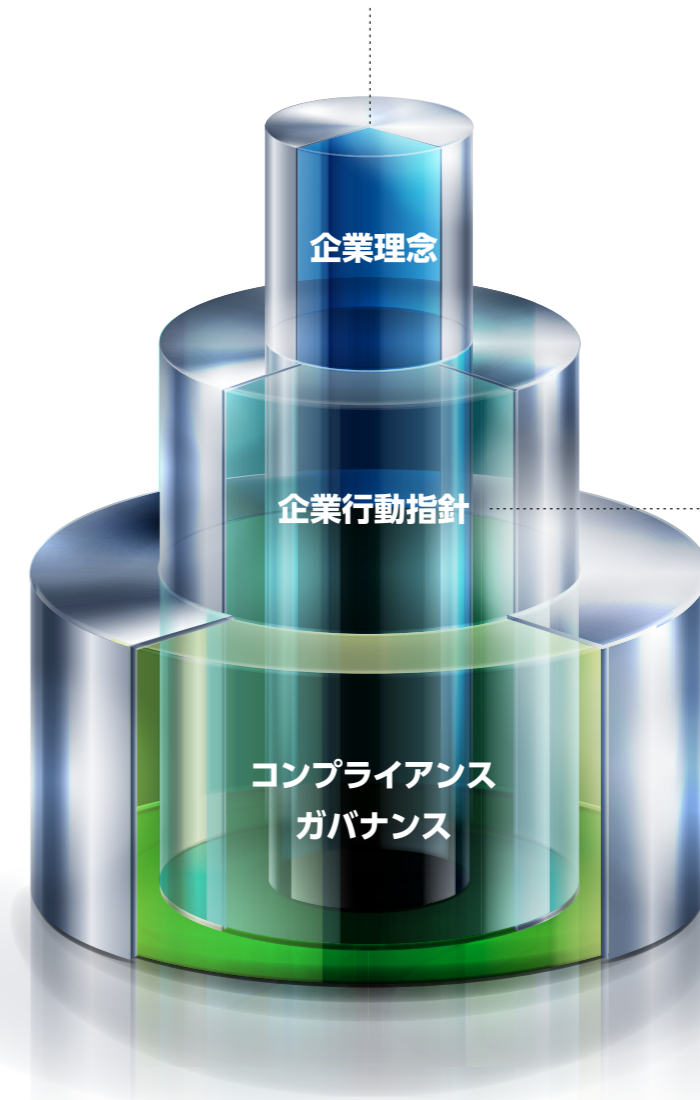
Webサイト CSR(社会・環境)

JFEグループの社会・環境への取り組みに関する最新情報を掲載したWebサイト。

Webサイト ecobeing

未来の世代に健康な地球を伝える環境Webサイト。JFEホールディングス(株)企画部の協力のもと、(株)クレイニングが運営。

JFEグループは、常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。



挑戦。
柔軟。
誠実。

理念の実践こそがCSRだと考えます。

JFEグループは「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します」という企業理念を実践していくために、行動規範・企業行動指針を定めています。それらに基づき、コンプライアンスの徹底、環境保全活動の強化に努めているほか、安全、防災、品質、人権などを重点テーマとしてさまざまな取り組みを推進しています。事業運営に際しては、公正・公平・透明なコーポレート・ガ

バナンス体制のもと、お客様・お取引先様、株主・投資家の皆様、地域社会の皆様、従業員など、すべてのステークホルダーの利益にかなう諸施策の実行に努めています。これからも、行動規範である「挑戦。柔軟。誠実。」の精神に則りながら、CSRを果たすべく真摯に取り組んでいくことで、社会に信頼されるJFEグループであり続けたいと考えています。

常に世界最高の技術で、社会に どのように貢献できるかを考えています。

Q JFEにとって重要な社会的責任とは？

A 今年、JFEグループは創立10周年を迎えます。この間、世界金融危機や東日本大震災の発生等、厳しい経営環境の中、強靱な企業体質の構築に取り組み、企業価値の向上をはかってきました。節目の年を迎え、JFE創設の原点に立ち帰り、更なる持続的な成長のための企業体質を確立するとともに、事業活動を通じて社会へ貢献して行くことが、私たちJFEグループに課せられた使命と考え、グループ一体となって取り組んでいきます。その実現のため、4つの施策を実行します。

まず、CSRの推進とコーポレート・ガバナンスです。社会との信頼関係の基本となるコンプライアンスの徹底に努め、経営の公正性、客観性、透明性を維持します。

二つめは環境経営の徹底です。地球温暖化防止をはじめとする地球的環境問題を経営の最重要課題の一つと位置付け、環境負荷低減および環境保全に積極的に取り組んでいきます。また、最先端の環境技術を提供することで持続可能な社会の構築に貢献します。

三つめはダイバーシティの推進です。グローバルマーケットでのプレゼンスの拡大に伴い、人材層の多様化を進めるとともに、海外での実務経験を通じた人材育成を更に強化します。

そして最後に財務体質の強化と株主還元です。グループの成長をめざした投資を遂行しながらも、健全な財務体質の構築に努め、また、株主還元についても最重要課題の一つと位置付け、今後もステークホルダーの皆様から信頼される企業をめざします。

Q 事業を通じた社会的役割とは？

A JFEグループは鉄鋼事業を中核とし、エンジニアリング事業や造船事業などさまざまな分野で事業を展開しています。これまで培ってきた世界最高水準の技術を活用することで、さまざまな分野でのエネルギー利

用の最適化や環境保全などの社会的な課題に対して、どのように貢献できるかを常に考えています。

鉄鋼分野では、地球温暖化防止という地球規模の課題に対して、「エコプロダクト」、「エコプロセス」、「エコソリューション」の3つのエコによる解決を推進しています。「エコプロダクト」では、自動車の軽量化や電気自動車の高効率化など、工業製品の省エネに貢献することを通じて、CO₂排出量の削減をめざしています。2011年度は「ユニハイテン®」が、440MPa級高張力GA(合金化溶融亜鉛メッキ)鋼板として自動車フードパネルに初採用されるなどの成果をあげました。「エコプロセス」では、低CO₂製鉄の最先端技術の開発を進めています。2011年度は、焼結鉱製造工程でのCO₂排出削減を可能にする炭化水素ガス使用焼結技術「Super-SINTER®」が、JFEスチールの製鉄所全地区で稼働しました。「エコソリューション」では、インドJSW社との包括技術提携やworldsteel(世界鉄鋼連盟)での活動などを通じて、世界最先端の省エネ、環境技術の世界各地への普及に貢献しています。

エンジニアリング分野では、震災以降の日本社会が抱えるエネルギー問題に対して、そのソリューションを提供すべく取り組んでいます。福島・土湯温泉では、地元の温泉組合などと協力し、地域の資源である温泉を利用した地熱バイナリー発電の事業化調査を開始しました。再生可能エネルギーを用いたまちづくりの先進事例を実現することで、被災地の復興支援ならびに国内各地の地域活性化に貢献して行きたいと考えています。また、今年6月には電力創生プロジェクトチームを立ち上げ、直面する電力不足に対して、保有する技術をベースとしたベストソリューションを提供する体制を整えました。

造船分野では、エコシップ化による燃費向上と温室効果ガス(GHG)の排出削減に取り組んでいます。2011年8月には、GHGの排出を25%削減した次世代大型バルクキャリア“Gシリーズ”を開発し市場投入しました。今後、Gシリーズをタンカー等の他船舶に展開するとともに、2020年度までにGHG排出量50%削減をめざし、研究開発を続けていきます。

Q 震災復興に向けた計画は？

A JFEグループは東日本大震災の被災地復興支援に引き続き全力で取り組んでいます。

JFEスチールグループでは、社会基盤の復興に必要な資材を最優先に供給するほか、逼迫する電力需給に対して、東日本製鉄所千葉地区の卸電力事業用発電所で従来の約3倍の電力を供給できる体制を整えました。また、地盤の液状化、沈下によって生じた建物と地面との間の空洞化問題に対して、鉄鋼スラグを活用した地中空洞修復工法を開発するなど、さまざまな分野で貢献しています。

JFEエンジニアリンググループでは、震災直後からガスや水道等のライフラインの復旧工事等に多数の技術者を派遣しました。また、被災地の復興再建を進めるにあたって早期の対応が望まれていた震災廃棄物処理に対しても、仙台市が発注した仮設焼却炉を工事着工からわずか3カ月で稼働させるなどの対応を行ってきました。今後は、ますます高まるであろう電力需要に対して、電力創生チーム(前述)が中心となって対応してまいります。

Q さまざまな社会課題に対する取り組みは？

A JFEグループは企業理念の実現に向けて、行動規範・企業行動指針を定め、社会とともに発展する企業経営をめざしています。

公正・公平・透明なコーポレート・ガバナンス体制のもと、コンプライアンスの徹底、環境問題への取り組み、安全、防災、品質、人権などに対して真摯な努力を継続し、すべてのステークホルダーの皆様の利益に合う諸施策を実践して行きます。

これからも持続可能な社会の発展をめざし、『挑戦。柔軟。誠実。』を行動規範として全力で取り組み、社会に信頼されるJFEグループとしてあり続けたいと思います。皆様からの忌憚なきご意見をお待ちしています。

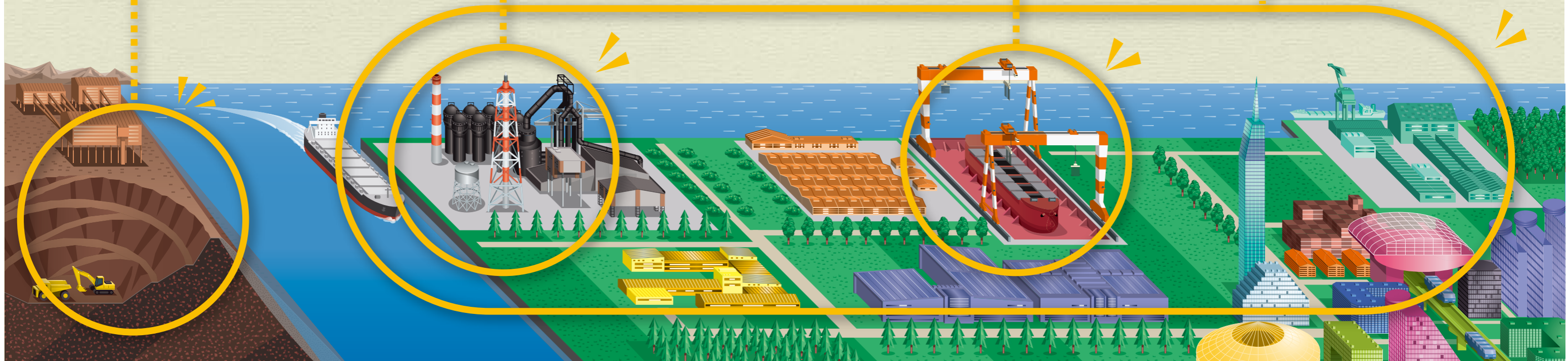
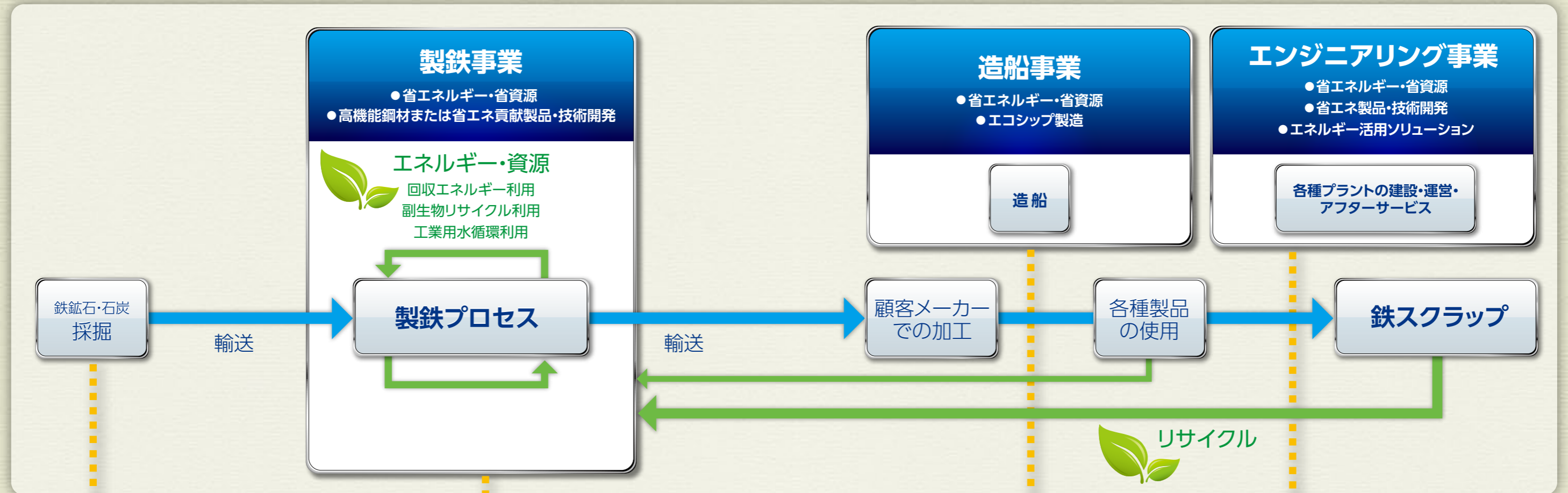
JFEホールディングス株式会社
代表取締役社長(CEO)

馬田 一



3つの事業で 持続可能な社会を実現

JFEグループは製鉄、エンジニアリング、造船の3つの事業を中心とした企業グループです。長年取り組んできた、エネルギー技術・資源リサイクル技術などを通じて持続可能な社会の実現に貢献しています。



特集 1 製鉄と地球温暖化防止

FEATURE



鉄をより軽く、より強く

—さまざまな鉄鋼製品で省エネを
より強く、より軽い、最先端の「てつ」が、「つかう」暮らしをエコに。
JFEスチールは、独自に開発した高機能鋼材をお客様に提供し、
最終製品の製造時、使用時のCO₂排出削減に貢献しています。

「クルマを軽くする技術」で 大河内賞を受賞

ナノレベルの表面改質層をつくることで、プレス加工しやすく、溶接しやすい高機能鋼板
(JAZ[®])を開発。また、鋼板の薄肉化と補強部材
の削減でクルマの軽量化と燃費向上に役立つ
「自動車用高強度鋼板NANOハイテン[®]」が「第
57回大河内賞記念賞」を受賞しました。



高強度大口径鋼管



東京
スカイツリー[®]



滑走路



土木建築用
大口径鋼管

JFEスチールの約束

「3つのエコ」で温暖化防止に貢献



つかうエコ
エコプロダクト
高機能鋼材により
自動車等のCO₂排出を削減



つくるエコ
エコプロセス
最新の省エネ技術で
低CO₂製鉄を実現



ひろげるエコ
エコソリューション
日本の省エネ技術を
世界に展開



橋



高品質高強度厚板



船舶



建物・船を軽く省資源に ～省エネ型建築用鋼材を開発

東京スカイツリー向けに開発した高強度
円形鋼管は、最上部を含む上部構造に使用され、
全体の軽量化とともに省資源化にも貢献。
スカイツリーには各種部材計12,700トン
を納入、鋼材の納入量は鋼材メーカー最大
でした。また、長手方向に板厚を多彩に変
化させたLP鋼板は、橋梁・造船分野での
重量低減、溶接箇所削減に貢献し、市村
産業賞を受賞しました。
(国土交通大臣認定を取得)



自動車



薄板

薄肉高強度圧入鋼板、自動車用高強度鋼板
(ユニハイテン[®]、JAZ[®]、NANOハイテン[®])
クロメートフリー電気亜鉛メッキ鋼板
(エコフロンティア[®]シリーズ)

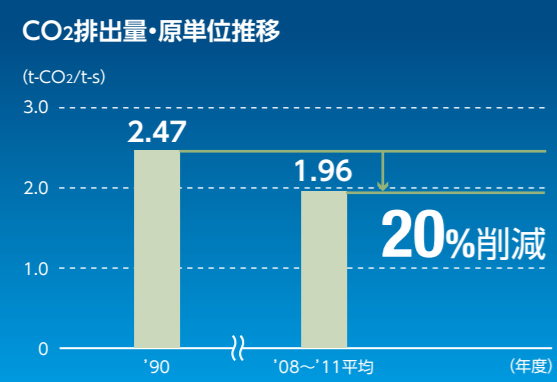
【事業主体:東武鉄道・東武タワースカイツリー】



低CO₂製鉄の最先端

— 世界最高レベルの技術を開発

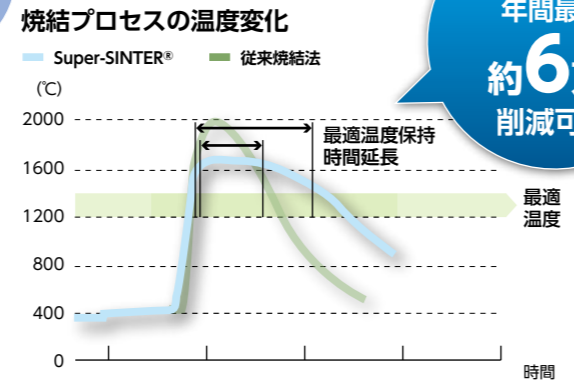
世界最高レベルの省エネ技術開発で、「つくるエコ」に取り組むJFEスチール。製鉄所のCO₂排出量の大半を占める焼結・コークス・高炉プロセスに焦点を当てた技術開発とその実用化を進めています。



JFEスチールでは、エネルギー回収・燃料転換・設備の効率化と、高度な操業技術の追求により、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。最近では、焼結鉱の品質を改善し大幅な省エネルギーを実現するSuper-SINTER®の実機化に続き、フェロコークス、COURSE50など、革新的なCO₂排出削減技術の開発を進めています。



岩谷直治
記念賞を受賞



教えて
JFE

? 焼結プロセスは、製鉄所でどんな役割を果たしていますか？

A 粉状の鉄鉱石を高炉で利用するために欠かせません。豊富に存在する粉状の鉄鉱石を、高炉で使えるように焼き固める設備です。大型高炉の安定操業に不可欠のプロセスです。

? 炭化水素ガスを使うと、どうして省エネにつながりますか？

A 燃焼最高温度を上昇させずに、良好に焼成できます。焼結機では、粉鉱石に熱源となる粉コークスを混ぜて焼き固めますが、燃焼制御しやすい炭化水素ガスを吹込むことで、粉コークスを減らしながら効率よく焼き固めることができます。



ワールドワイドに排出削減

— 省エネ環境技術を世界中で普及

つくるエコを世界規模に展開する、「ひろげるエコ」です。JFEスチールは、省エネ・環境技術のグローバルな普及を促し、鉄鋼生産のグリーン化と省エネ化でリーダーシップを発揮しています。

- ベトナム**
東南アジア初の環境配慮型高炉一貫製鉄所の事業性調査を開始
- タイ**
新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)のモデル事業として、ECOARC(省エネ電気炉)を導入
- フィリピン**
焼結専業子会社PSCにおいて、焼結クーラー排熱回収技術によるCDMプロジェクトを組成し、生成したクレジットを購入
- 米国**
カリフォルニアスチール社において、鋼材加熱炉にリジェネバーナーを導入
- インド**
JSWスチール社と包括技術提携
インド第2位の粗鋼生産能力を持つJSWスチール社と省エネ・環境分野の技術交流を進めています。エンジニアの訪日研修や、NEDO調査事業等を通じて、インド鉄鋼企業のエネルギー効率改善に協力しています。
- その他**
worldsteel環境政策委員会の活動を通じて、新興国企業の省エネの必要性を強調し、技術普及を促進

教えて
JFE

? 海外への技術普及に積極的に取り組む目的は？

A JFEスチールの技術を地球環境保全に役立てるためです。今後の鉄鋼需要の伸びは、その大半が新興国によるものと想定されます。日本企業が開発実用化した各種省エネ技術を積極的に提供し、新興国製鉄所のエネルギー効率を改善することは、地球規模の省エネとCO₂排出削減に貢献します。

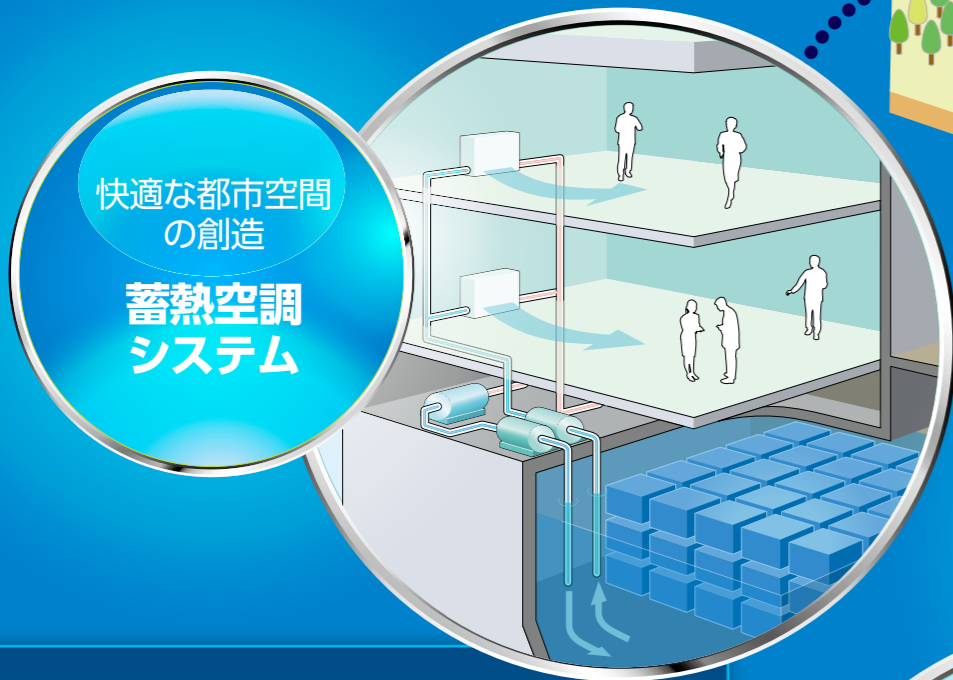
? 技術の移転・普及に関する課題は？

A ハードだけでなくソフトにも力を入れます。従来の技術移転プロジェクトは設備提供(ハード)にとどまることが多く、受入企業の設備操業や保守管理に関する技術レベルが不足する場合、設備の能力が十分に発揮されないことがありました。今後は専門家派遣や研修生の受け入れなど人材育成(ソフト)にも力を入れ、技術の定着と受入企業の自立的な改善の促進をめざして行きます。



電力創生とエコで 快適生活を支える

東日本大震災以降、わが国の電力需要は依然厳しい状況下であり、省エネ対策に加えて、新たな電源の整備が喫緊の課題となっています。また、今年7月からは再生エネルギーの固定価格買取制度も開始され、新エネルギーシステムに対するニーズも高まりを見せています。JFEエンジニアリングは、グループの総力を結集し、日本の電力不足解消に貢献すべく迅速に対応して行きます。



快適な都市空間の創造

蓄熱空調システム



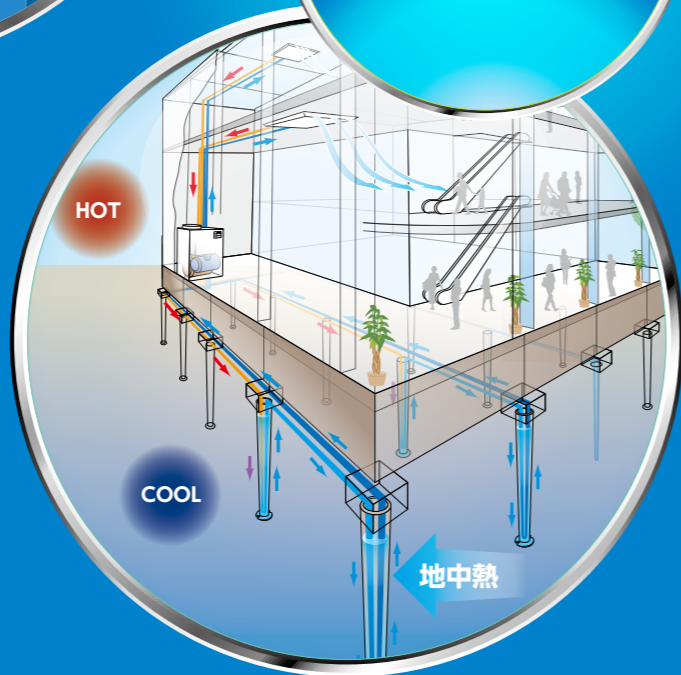
便利でECOな生活

地中熱利用
空調システム

再生可能エネルギーに関する技術

造船業と製鉄業との融合から生まれたJFEエンジニアリングは、製鉄施設などで培った省エネ技術や、船用エンジンに起源をもつエンジン技術などを磨き上げるとともに、更に太陽光・風力・地熱・バイオマスなどの再生可能エネルギーに関する技術も蓄積してきました。

JFEエンジニアリングは、これらの豊富な商品ラインナップと技術をベースに、それらを総合するエンジニアリング力を駆使して、お客様の地域特性やニーズに合ったベストソリューションを提供しています。



廃棄物から
電力を生み出す
ごみ焼却発電



下水からエネルギー
下水汚泥消化
ガス発電



太陽の恵みを
有効利用
太陽
エネルギー
発電



夏の節電要請
に応える
ガスエンジン
発電



地域の資源で
まちおこし
地熱発電



地熱発電

地域の資源でまちおこし——
温泉水で
温泉バイナリー発電

JFEエンジニアリングは、2012年1月に、湯遊つちゆ温泉協同組合および有限会社宝輪プラント工業とともに、温泉バイナリー発電の事業化に向けた調査に着手しました。

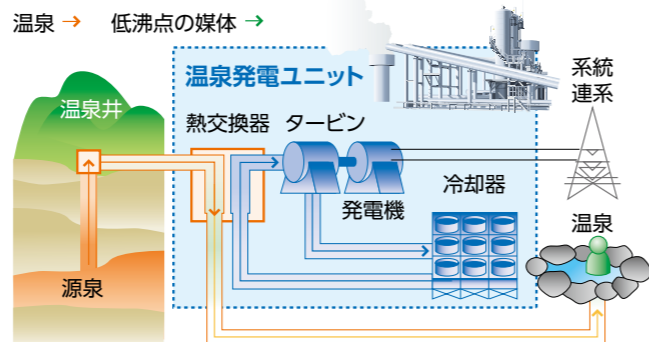
土湯温泉では、東日本大震災と原子力発電所事故の影響で地域経済を支える観光産業が大きな影響を受けており、早期復興による地域経済の活性化が急がれています。

温泉バイナリー発電は、高温で湧出する温泉水の熱エネルギーの一部を使って高効率に発電するシステムで、流量や成分を変動させないため、温泉の効能や湯量に影響をもたらさない画期的な発電システムです。

2年後に500kW級の発電事業の開始をめざし、将来的には1000kW級に拡大することで、土湯温泉の電力需要をすべて賅える規模の発電事業の実現を目標としています。



福島県土湯温泉



教えて
JFE

温泉バイナリー発電によって温泉の湯量が減ってしまうことはありませんか？

A 温泉バイナリー発電によって、温泉の湯量が減る心配はありません。

地熱バイナリー発電は、高温の源泉と浴用に使用する温泉の温度差分のエネルギーを有効活用する技術ですので、温泉で利用する湯量を減らすことはありません。



地熱発電部
福田 聖二

排熱利用

夏の節電要請に応える——
高効率クリーン
エンジンで自社発電

JFEエンジニアリングは、2012年5月に、自社開発したガスエンジン発電システム「E3Gガスエンジン」を、鶴見製作所内に設置し、運転を開始しました。

「E3Gガスエンジン」は、1964年以降、船用および発電用エンジンとして内外の顧客から長期にわたりご愛顧いただいているPCエンジンをベースに開発した、高効率性と低環境負荷性を併せ持つ大型ガスエンジンです。

設置したシステムで、鶴見地区で使用される契約電力の約半分を自家発電でまかなう計画で、夏場の電力不足による節電要請があった場合にも、その要請に応えることができる体制をとっています。



ガスエンジン発電機

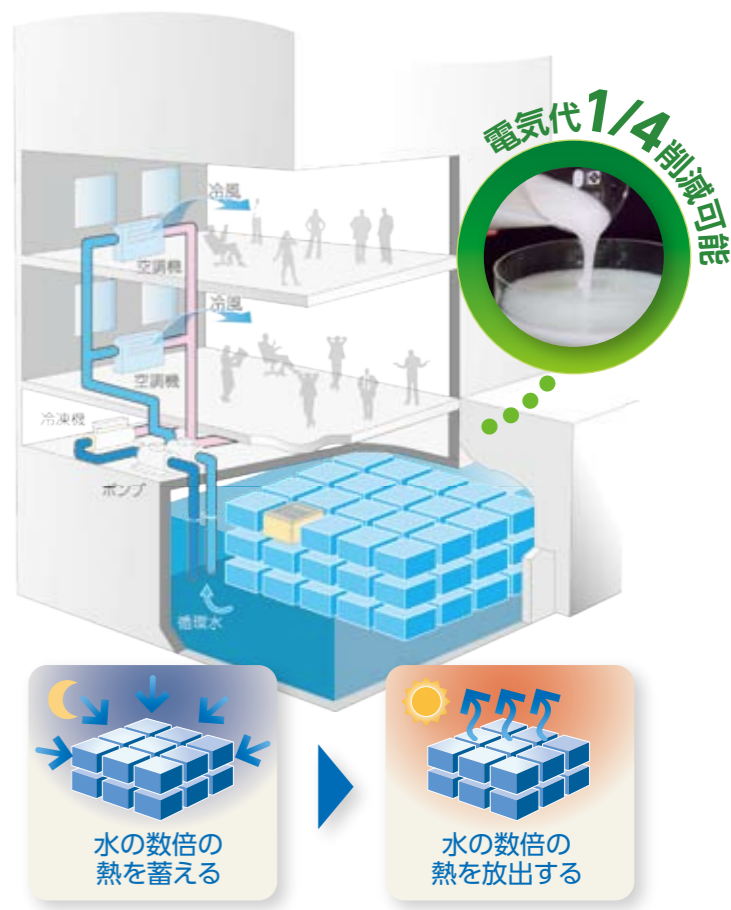
蓄熱空調システム

快適な都市空間の創造——
高効率空調システム
ネオホワイト

JFEエンジニアリングは、2012年4月に、蓄冷性に優れた素材「ネオホワイト」を既存ビルの水蓄熱空調に利用できる、蓄冷パックの販売ならびにそのエンジニアリングサービスを開始しました。

「ネオホワイト」は従来の集中空調システムで使われている水に対して2倍以上の冷熱を蓄える能力を持つスラリー状の流体です。夜間に効率的に熱を蓄え、昼間にその冷熱を放出することで、電力抑制と運転コストの削減が実現できます。ネオホワイト蓄熱空調システムは、川崎アゼリア地下街などで採用され、快適な都市空間の維持に貢献しています。

このたび、この「ネオホワイト」をパックに封入し、これを水蓄熱空調システムの水槽内に設置することで、水を循環するシステムを維持し、配管の付け替えなどを要することなく、容易にネオホワイト蓄熱空調システムと同等の電力抑制効果を得ることが可能となりました。



水の数倍の熱を蓄える

水の数倍の熱を放出する

地中熱利用空調システム

便利で、ECOな——
地中熱の利用で
省エネ空調



JFEエンジニアリングは、2011年9月より、株式会社セブン-イレブン・ジャパンとともに、国内複数個所のセブン-イレブン店舗に、地中熱利用空調システム「GeoTOPIA」を導入し、熱エネルギーの計測を行う、共同実証試験をスタートさせました。

地中の温度は、年間を通じてその場所の年平均気温とほぼ同じです。この熱を、夏の冷房、冬の暖房に利用するのが地中熱利用空調システム「GeoTOPIA」です。従来の空調システムに比べて、エネルギー使用量とCO₂排出量を約30%削減できます。

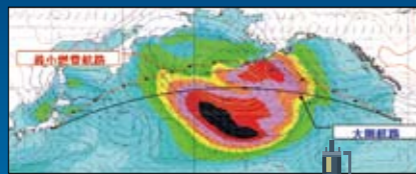
エコシップの最先端技術

——世界初が満載

ユニバーサル造船は、船体性能の向上、低燃費機関プラントの構築、更には実海域性能向上などによって、船舶の運航時における省エネと温室効果ガス (GHG) の排出削減に貢献しています。

最も経済的な航路で運航

「Sea-Navi®」は「海のカーナビ」という意味から命名された運航支援システムで、波・風・海流の予報データに基づいて、安全性と定時性を考慮した最も経済的な航路計画を提案します。毎日、最新の海気象予報データが船に送信されるので、航海中でも容易に航路修正できます。また、航海データは陸上に送信されるため、会社にいながら船の運航状態を知ることができます。更に、船体構造部材の疲労強度を解析して余寿命を診断し、最適メンテナンスも提案します。



LEADGE-Bow



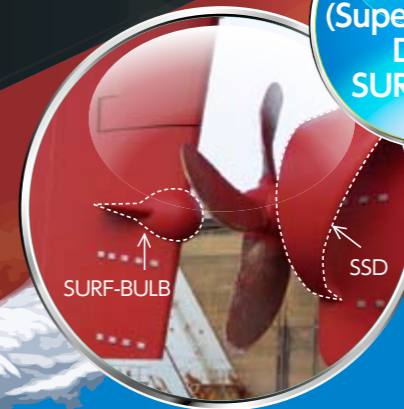
LEADGE-Bowは、実海域での運航性能を考慮した船首形状で、ユニバーサル造船が10年以上前から他社に先駆けて開発してきた技術の成果です。この船首形状を採用した船型は、波の中での船速低下を軽減し、燃料の消費量増大を抑える効果があることから、運航経済性の向上とともにGHG排出削減にも貢献しています。

ハイブリッド過給機とは、船用ディーゼルエンジンの過給機に小型発電機を内蔵し、排気ガスのエネルギーを再利用して発電する装置です。ユニバーサル造船は、この発電システムを他社と共同開発し、世界で初めて船舶に搭載しました。通常航海中はこのシステムで船内の電力需要をまかなうことができ、ディーゼル発電機の燃料削減に寄与します。従来、排ガスや廃熱の再利用設備は大型でしたが、ハイブリッド過給機はコンパクトで小型船舶への搭載も可能です。

ハイブリッド過給機電源システム



SSD (Super Stream Duct) SURF-BULB



SSDとSURF-BULBは船が前進するとき生じるエネルギーロスを回収する省エネ装置です。SSDは、プロペラ前方に装備され、船体が前進するとき発生する渦の力を推進力に変え、プロペラへの水の流れを整えることによって推進効率を高める装置です。SURF-BULBは、プロペラの後方の舵に装備され、プロペラが発生する回転流を推進力に変える働きがあります。この2つを組み合わせることで、約10%の省エネ効果があり、GHG排出削減に貢献します。

? ユニバーサル造船の船舶のGHG削減状況は?

A 国際的に定められた基準をいち早く達成しています。

IMO(国際海事機関)では、船舶が1トンの貨物を1マイル運ぶときのCO₂排出量をEEDI(Energy Efficiency Design Index)と規定し、IMOの定めるEEDI基準値から2015~2020年に10%、2020~2025年に20%、2025年以降は30%削減することを規則化しました。ユニバーサル造船の開発船は、この基準値に対して約30%の削減を達成しています。

? ユニバーサル造船の船舶の燃費低減のポイントは?

A 高度なCFD技術と水槽試験技術に基づく船体開発です。

最先端のCFD(Computational Fluid Dynamics:数値流体力学)技術と高精度な水槽試験技術を駆使し、ここで紹介したような省エネ技術を採用した場合に最も燃費が低減できるような船体を開発しています。また、船体自体の性能を向上させるとともに、Sea-Navi®を搭載することで、運航面での燃費低減にも取り組んでいます。



基本設計部 性能計画室 高岸 憲賢

教えて JFE

事業・主要製品	期待されるテーマ	解決策
<p>鉄鋼事業 オンリーワン・ナンバーワン商品をグローバルに展開 世界トップクラスの鉄鋼一貫メーカーです。東西2大製鉄所体制による高い国際競争力を持ち、世界有数の技術と商品開発力を活かしたオンリーワン・ナンバーワン商品および各種高付加価値商品を製造・販売しています。</p> 	<p>鉄鋼製品、チタン製品、鋼材加工製品、化学製品、鉄鋼スラグ製品、索形材製品、各種容器類、鋳業・鋳産品、機能素材、合金鉄、各種耐火物、築炉工事、土木建築工事、設備管理・建設工事、電気工事、電気通信工事、火力発電、ガス、建設仮設材、不動産、保険代理業、鋼構造物等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CO₂排出削減 ● 省エネルギー ● 省資源 ● 生物多様性の保全 ● 電力不足への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「エコプロセス」の実用化 最先端の省エネ技術・設備により生産工程のCO₂削減をめざす ● 「エコプロダクト」の開発 高機能鋼材の供給を通じて最終製品の使用段階での省エネを促進する ● 「エコソリューション」の世界展開 世界最高水準の技術を海外に展開・移転し、地球規模でのCO₂削減をめざす ● 鉄鋼スラグによる海域環境修復技術の開発・提供 ● IPPと自家発電による社会への電力供給
<p>エンジニアリング事業 環境、エネルギー分野で最新技術を提供 コアとしている都市環境・エネルギー分野では、多様な資源をグリーンエネルギーとして有効利用するための技術を提供しています。また、橋梁などの鋼構造物や産業機械の分野にも展開しています。</p> 	<p>エネルギー分野: 発電プラント、エネルギープラント、省エネ空調、EVシステム、パイプライン、制御システム</p> <p>都市環境分野: 都市環境プラント、アクア、バイオマス、オペレーション&メンテナンス</p> <p>鋼構造物分野: 橋梁、沿岸構造物、レール溶接</p> <p>産業機械分野: ロジスティクス、流通システム、船用機械、シールドマシン</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CO₂排出削減 ● 生物多様性の保全 ● 環境汚染防止 ● 震災復興支援 ● 都市づくりへの貢献 ● 電力不足への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「再生可能エネルギー技術」の開発 ● 「地熱バイナリー発電」の建設 ● 「バラスト水処理システム」の拡販 ● 「汚泥乾燥装置」の開発 ● 「震災廃棄物用焼却炉」の建設
<p>造船事業 省エネ技術を強みにグローバルなニーズに対応 5事業所、1技術研究所体制で、タンカーなどの大型一般商船や護衛艦、掃海艇などの各種艦艇、砕氷艦の建造、修繕を手がけています。</p> 	<p>大型一般商船(タンカー、バルカー、鉱石運搬船、LNG船、LPG船)、大型海洋構造物、オフショア船、護衛艦、補給艦、輸送艦、掃海艇、巡視船、砕氷艦、その他各種艦艇、防衛装備品、船用機械、産業用ロボット等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 省エネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「エコシップ」の開発 ● 船舶の燃料消費を抑制 ● 海上運航支援システム ● 省エネデバイス

地球環境の保全のために



環境理念

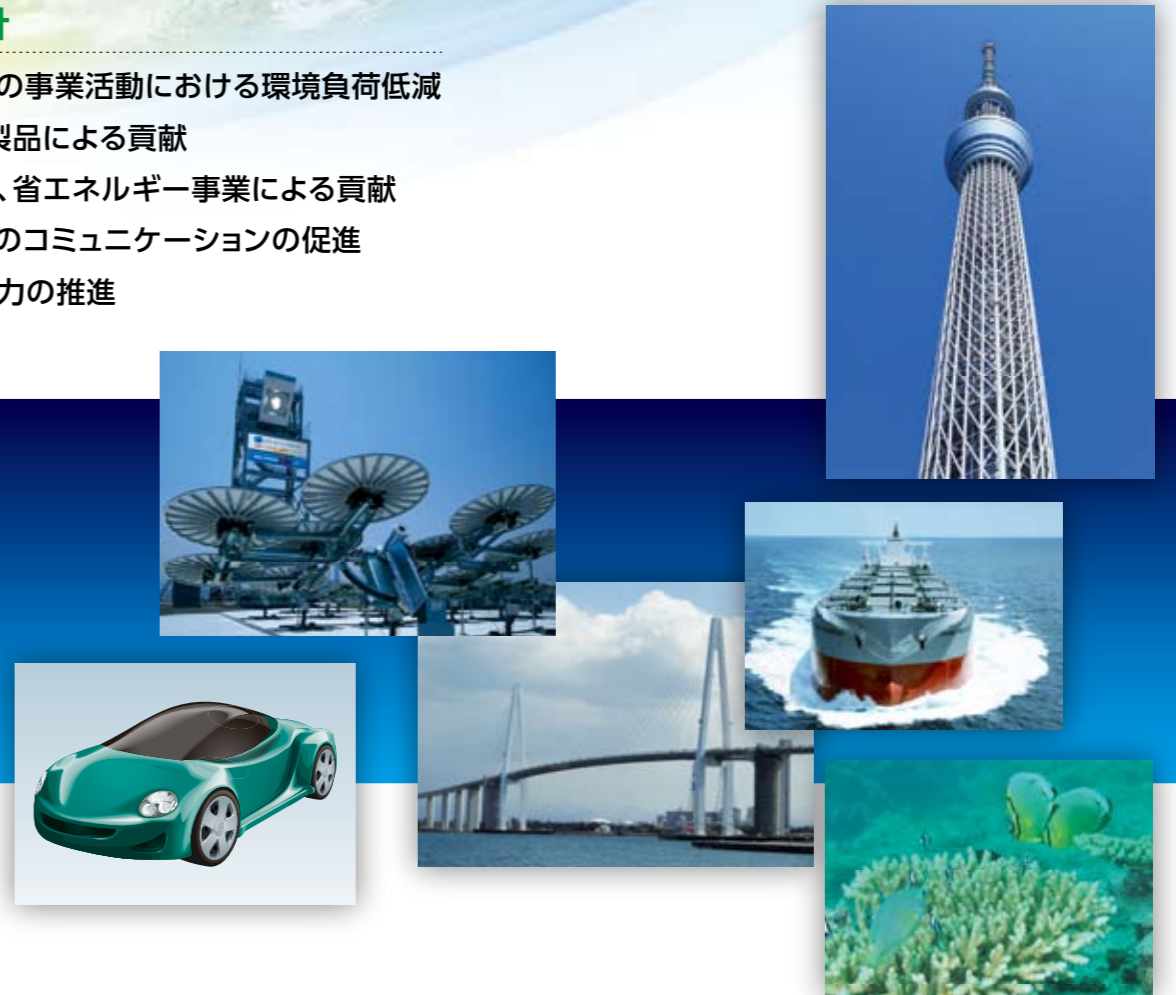
JFEグループは、地球環境の向上を経営の重要課題と位置付け、環境と調和した事業活動を推進することにより、豊かな社会づくりをめざします。

環境方針

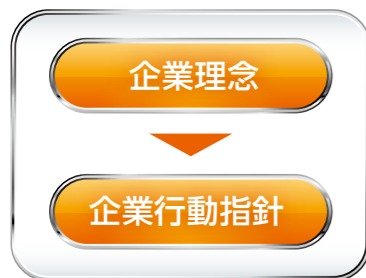
1. すべての事業活動における環境負荷低減
2. 技術、製品による貢献
3. 省資源、省エネルギー事業による貢献
4. 社会とのコミュニケーションの促進
5. 国際協力の推進

JFEグループの事業とCSR

環境保全と社会発展への貢献を指針に
多様な事業を展開しています。



社会の発展に貢献するために



JFEグループ企業行動指針

JFEグループの役員および社員は、「企業理念」の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、「行動規範」の精神に則るとともに以下の「行動指針」を遵守する。
経営トップは自ら率先垂範の上、社内への周知徹底と実効ある体制整備を行い、企業倫理の徹底を図るとともに、取引先にもこれを促す。
本行動指針に反する事態には、経営トップ自らが解決にあたり再発防止に努める。
また、社内外への迅速かつ的確な情報公開を行い、権限と責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

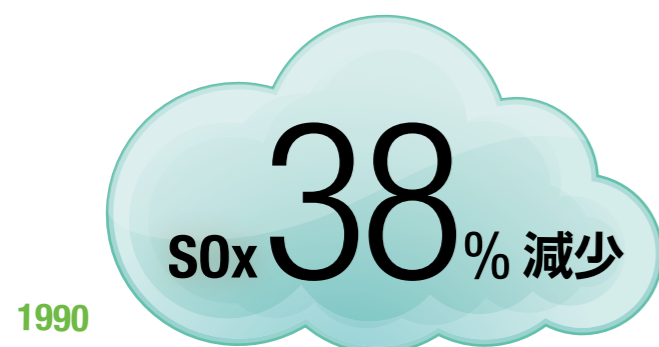
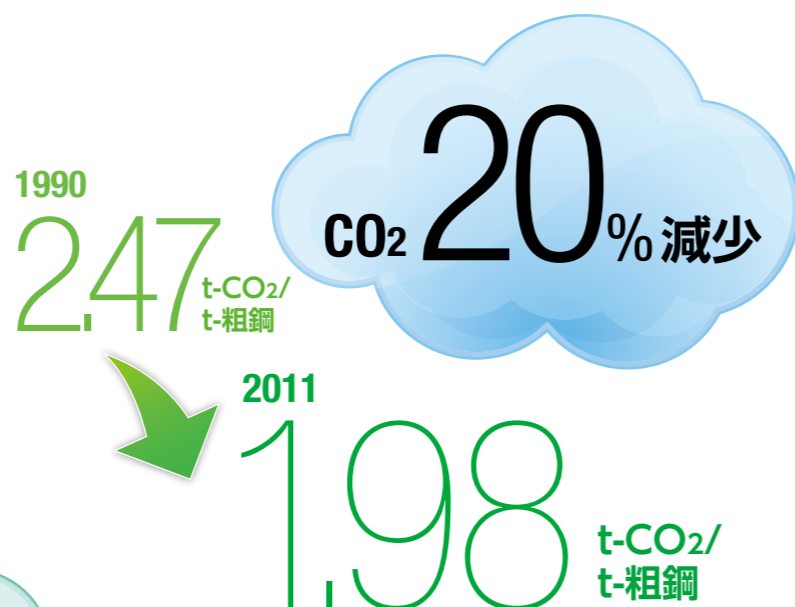
1. **良質な商品・サービスの提供**
優れた技術に基づいた安全で高品質の商品とサービスの提供に努めるとともに、個人情報・顧客情報の保護に十分配慮し、お客様から高い評価と信頼を得る。
2. **社会に開かれた企業**
株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報について、社会への積極的な情報公開に努める。
3. **社会との連携と協調**
良き企業市民として、社会との連携と協調を図り、積極的な社会貢献に努める。
4. **グローバル化**
グローバルな視点を持ち、各種の国際規範はもとよりそれぞれの文化や習慣を尊重し、世界のさまざまな人々との相互理解に努める。
5. **地球環境との共存**
地球環境との共存を図るとともに、快適な暮らしやすい社会の構築に向けて主体的に行動する。
6. **政治や行政との関係**
政治や行政との健全かつ正常な関係の維持・構築に努める。
7. **反社会的勢力への対応**
市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じない。
8. **人権の尊重**
社会の人々、従業員を個として尊重し、企業活動において一切の差別を行わない。
9. **働きがいのある職場環境**
従業員にとって魅力に富み、安全で働きがいのある職場を提供する。
10. **法令の遵守**
法令を遵守し、公正で自由な競争に心がけ、適法な事業活動を行うとともに、健全な商慣習に則り、誠実に行動する。



JFEスチールの環境負荷低減活動

CO₂原単位を20%削減しました

2011年度は、福山3高炉改修や全地区におけるSuper-SINTER®稼働などの設備投資を実施しました。また、全社できめ細かな省エネ活動を積み重ね、粗鋼1トンを生産する際に排出するCO₂の量は、1990年度比で20%の大幅削減を達成しました。



代表的な大気汚染物質 SO_x、NO_xの排出量を削減しました

大気汚染を防止するため、SO_x、NO_xの排出抑制に取り組んでおり、主要な排出源である焼結排ガスへの脱硫装置、脱硝装置の設置等を進めてきました。低硫黄燃料適用なども進めており、2011年度のSO_x、NO_xの排出量は、1990年度比でそれぞれ38%、21%の減少しています。



焼結炉排ガス処理設備

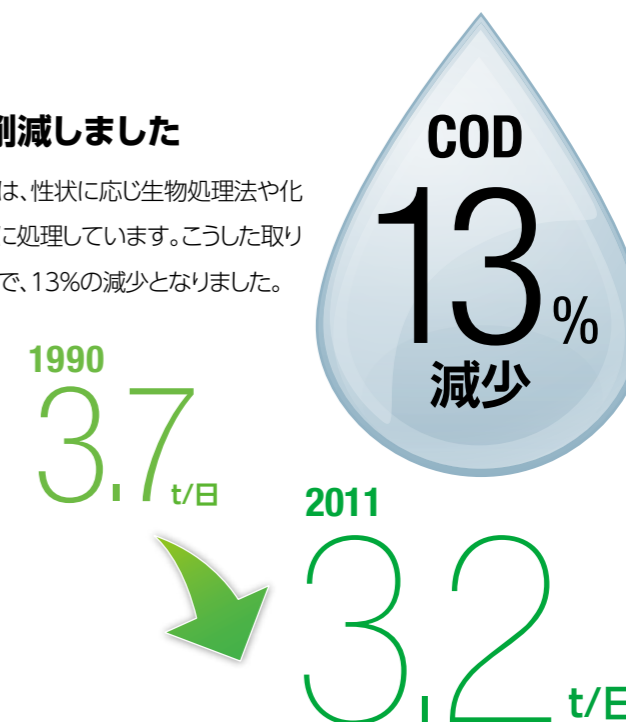


COD(化学的酸素要求量)を13%削減しました

製鉄プロセスで使用した水を公共水域へ排水する際は、性状に応じ生物処理法や化学処理法など高度に浄化する排水処理設備で効率的に処理しています。こうした取り組みにより、2011年度のCOD排出量は1990年度比で、13%の減少となりました。



千葉水処理

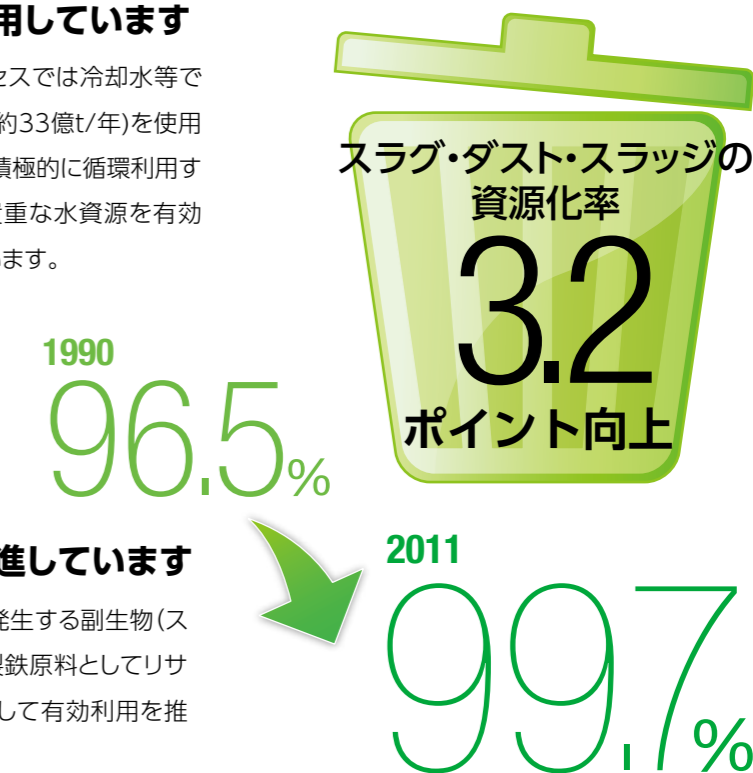


工業用水の93.9%を循環利用しています

製鉄プロセスでは冷却水等で大量の水(約33億t/年)を使用しますが、積極的に循環利用することで貴重な水資源を有効活用しています。

副生物の有効利用を推進しています

JFEスチールは、製鉄プロセスで発生する副生物(スラグ、ダスト、スラッジ)を所内で製鉄原料としてリサイクルするとともに、製品・資源として有効利用を推進しています。





JFEエンジニアリングの環境負荷低減活動

2011年度マテリアルバランス



リサイクル率97.8%を達成しました

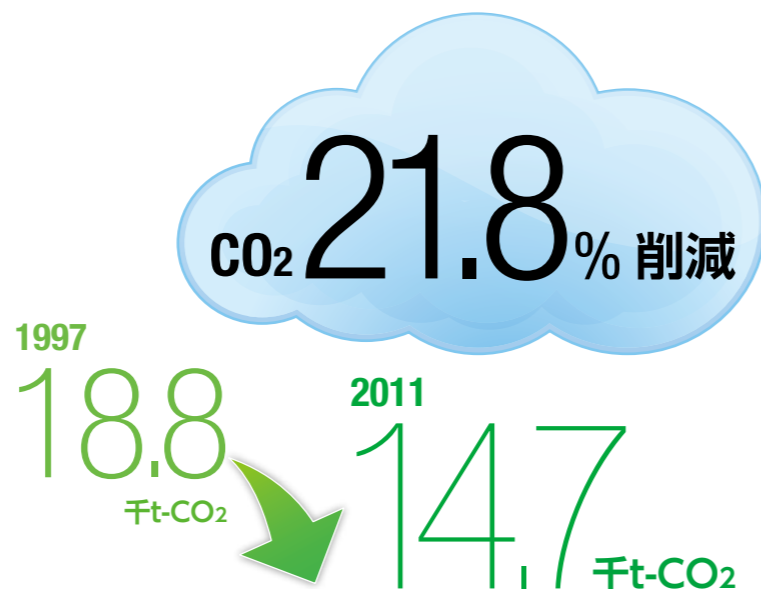
2011年度は、オフィス部門では、年4回、リサイクルパトロールを実施し、オフィスごみのリサイクルを進めました。また、計画・設計部門では、リサイクル材の採用や省エネ機器の選定に努めました。オフィス部門に加えて、生産部門および現地工事部門においても、廃棄物のリサイクル率について目標値を設定し、リサイクルを推進しています。



産業廃棄物リサイクル設備の現地踏査

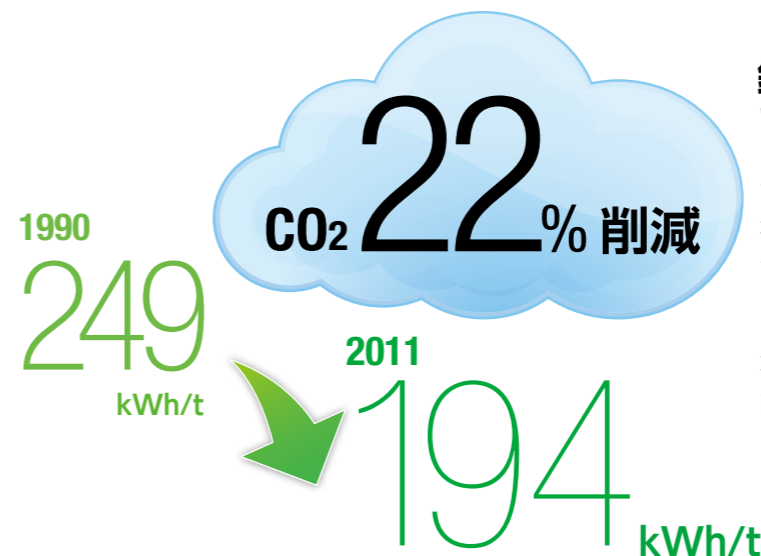
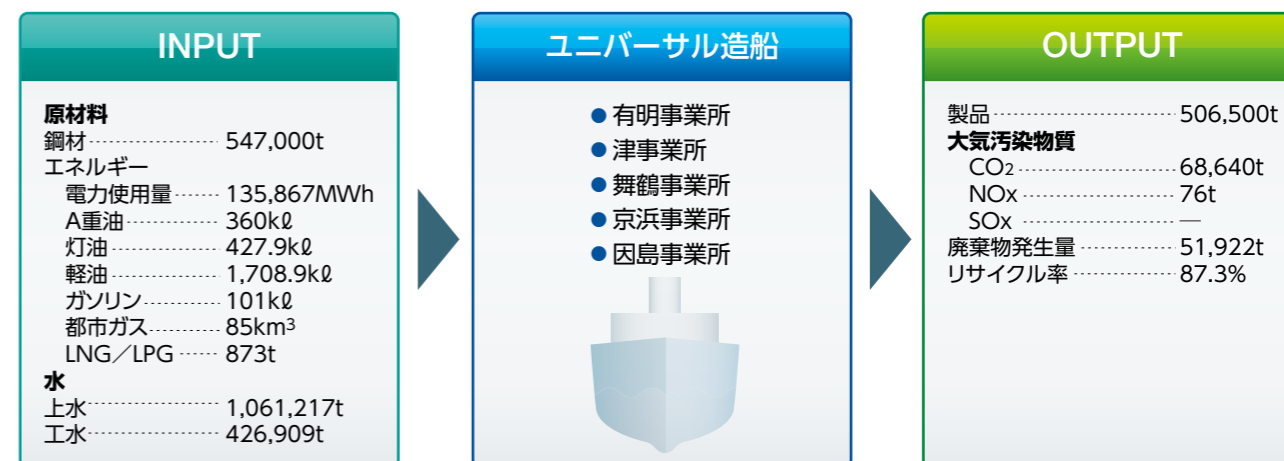
CO₂排出量を21.8%削減しました

生産部門では、電力や切断・溶接ガス使用量の削減、圧縮空気の効率的な使用に取り組んできました。また、オフィス部門では、エネルギー効率の高いネオホワイト蓄冷空調システムの導入やLED照明への交換を進めました。2011年度の生産部門・オフィス部門をあわせたCO₂排出量は、14.7千トンであり、JFEエンジニアリングが加盟している日本産業機械工業会の環境自主行動計画の基準年である1997年度比で21.8%の減少となりました。



ユニバーサル造船の環境負荷低減活動

2011年度マテリアルバランス

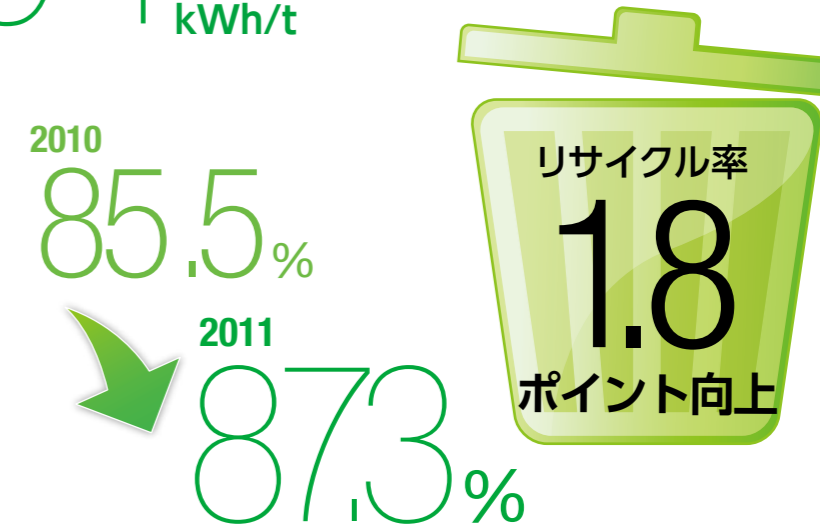


鋼材加工重量あたりの電力使用量を1990年度比22%削減しました

ユニバーサル造船において、排出するCO₂の中で、最も比率が高いのが、電力エネルギー由来のCO₂です。2011年度は、積極的な設備更新と電力使用量の「見える化」を進め、鋼材加工重量あたりの電力使用量が、1990年度比10%削減の目標を上回る、22%削減を達成しました。

リサイクル率87.3%を達成しました

2011年度は、生産部門で、分別箱の管理強化や現場パトロールなどを実施し、廃棄物の再利用・再資源化を推進しました。また、オフィス部門でも、廃紙の再利用や分別を徹底しました。この結果、廃棄物のリサイクル率は、2010年度の85.5%から87.3%に向上しました。





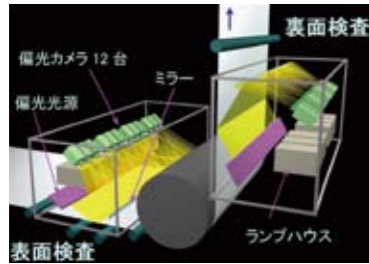
お客様・お取引先様とともに

ISOやJISに基づく品質保証の仕組みをさらに強化し、お客様からより信頼されるJFEブランドをめざしています。また、お客様とともに商品の開発ができる施設を活用し、お客様・お取引先様のニーズに適切に対応しています。

世界最先端の検査装置と試験機器を用いて品質保証を実施

近年のお客様からのご要望のハイスペック化・ハイクオリティ化に対しては最新の製造技術を開発するとともに、世界最先端の検査システムで品質保証しています。

このように“すべてのお客様の良きビジネスパートナー”として製品の品質の更なる向上に努めています。



表面検査装置

微細な表面欠陥を自動検出する最先端の検査装置を開発しています。

お客様に信頼いただける製品をお届けするため、最先端の検査装置を自社開発しています。例えば、第48回大河内記念技術賞や平成15年度全国発明表彰発明賞を受賞するなど、高い評価をいただいた表面検査装置「デルタアイ」は、自動車用などの高級鋼板に表面欠陥がないかを、自動的に検査できます。これからも、品質保証の一層の強化に向けて、より微細な表面欠陥を検出する装置の開発と実用化に取り組んでいきます。



JFEスチール
計測制御研究部 主任研究員
大重 貴彦



株主・投資家の皆様とともに

適時・適切な会社情報の提供を重視して、即時性の高いWebサイトを活用しているほか、決算発表の早期化に努めています。また、工場見学会やIR説明会など、事業活動への理解を深めていただいています。

積極的なコミュニケーションを展開

JFEホールディングスは、財務・IR部に「IR室」を置いてIR(Investors Relations)活動を強化しています。近年では、機関投資家や証券アナリストの皆様からの個別取材にお応えしているほか、国内外の投資家を訪問したり、決算説明会を開催するなど積極的に情報を発信しています。また決算説明会の資料や動画をWebサイトでも広く公開するなど、フェア・ディスクロージャーに努めています。

2011年度は、個人投資家の皆様を対象に証券会社の支店などで26回の会社説明会を実施しました。



個人投資家説明会

投資家の皆様とのコミュニケーションのため全国で会社説明会を実施しています。

IR室では、個人投資家の皆様を対象に証券会社支店などで会社説明会を実施しています。近年、東京・大阪以外の地方都市にも開催の幅を広げており、2011年度は約2,200名の方にご参加いただきました。私たちは説明会を投資家の皆様と直接対話できる貴重な機会と考えています。質疑応答の際にはJFEの海外戦略や今後の成長性、海外他社に対する技術の優位性などについて、期待や激励も込めたご質問を多くいただきます。



JFEホールディングス
財務・IR部 IR室 主任部員
岡本 絵里子

水道関係者の方からのご意見・ご要望が“改良のヒント”になっています。

大地震によって活断層が大きく動いた場合でも、変形を吸収することで漏水することなく水道水を供給できる「断層用鋼管」の開発を担当しました。開発に際しては、最適形状や性能を確認するため、THiNK SMARTの構造試験機を用いて、実物大鋼管の曲げ実験(公開実験)を実施しました。実験には自治体などから多くの水道関係者にご参加いただき、貴重なご意見・ご要望を頂戴することができ、その後の改良の参考になりました。



JFEエンジニアリング
水道管路技術部 副課長
長谷川 延弘

鋼構造材料ソリューションセンター「THiNK SMART」

東日本製鉄所に隣接する京浜THiNK地区に、JFEスチールの鋼構造研究施設「THiNK SMART※」があります。ここでは、最新の鋼構造鋼材商品やその利用技術を表示するほか、各種実験設備を有しており、お客様に鋼材・技術に直接触れていただき、ディスカッションしながら、新商品・新技術の開発を進めています。

近年は、東京スカイツリー向け高強度鋼管「P-500」



断層用鋼管

「P-630」や「断層用鋼管」など、社会基盤整備にさまざまなソリューションを提供しています。

※ THiNK SMART=「Techno Hub INovation Kawasaki(テクノハブイノベーション川崎) + Steel Material for Application Research & Technology(鋼構造ソリューションセンター)」の略。川崎市が推進するアジア起業家村構想の拠点地区。

楽しんでいただけるよう綿密な打合せをしています。

見学では建造ドックなど屋外の製造現場をご覧ください。その日の天候や気温を考えて、傘やカイロ、防寒着などを用意したり、また段差で転んで怪我をされないよう見学ルートの下見をしたりと、現場のスタッフと何度も綿密な打合せを重ねて当日を迎えています。事前準備は大変ですが、お帰りの際に株主の皆様から笑顔で「楽しかったよ、ありがとう」というお言葉をかけていただくと、本当に胸が熱くなってきて苦労も吹き飛びます。



ユニバーサル造船
津事業所 総務部総務室
信田 温子

大型タンカー建造の様子などをご覧いただける株主向けの工場見学会を開催

株主の皆様へJFEグループへの理解を深めていただけるよう、工場見学会と会社概況説明会を開催しています。2011年度は、JFEスチールの東日本製鉄所(千葉地区・京浜地区)・西日本製鉄所(倉敷地区・福山地区)、JFEエンジニアリングのリサイクル工場(京浜地区)・津製作所、ユニバーサル造船の津事業所で合計26回実施して計1,911名の株主の皆様にご参加いただきました。津製作所・津事業所の見学会は2011年



株主工場見学会

12月と2012年3月の延べ4日間にわたって開催し、386名の皆様に橋梁や大型タンカー建造の様子をご覧いただきました。



地域社会の皆様とともに

事業拠点を展開する地域社会の発展に貢献するために、大学研究・教育分野の催し、文化活動や福祉活動、災害復旧活動への支援など、さまざまな社会貢献活動を継続的に実施しています。

東日本大震災で被災した地域の復興に向けて継続的にボランティアを実施

JFE商事は、2011年8月26日から東日本大震災で被災した地域の復興をお手伝いするために社員から災害ボランティアを募集し、6回にわたって派遣。宮城県牡鹿町、南三陸町で津波の被害にあわれた老人ホームや民家、漁港などで、がれきや土砂の撤去と除去後の分別を実施しました。工程を会社がセッティングして十全な活動ができるようにサポートしています。



被災地支援

新入社員から役員まで、東京から倉敷まで100名超でボランティアに取り組んでいます。

災害ボランティアを募集しようと決定したときに「果たして何名の応募があるのか」との思いもありましたが、開始約1年を経過して新入社員から役員まで、また東京から倉敷まで、延べ100名超の参加がありました。ボランティア参加者からは「被災地の皆さんからの『ありがとう』という言葉に、逆に元気をいただいた」という感想が寄せられています。東北被災地を少しでも元気づけることができるよう、今後も可能な限り活動を継続していきたいと考えております。



JFE商事
総務部広報室長
関戸 孝純



従業員とともに

従業員が活き活きと働ける職場環境をめざして、雇用の促進や健全な労使関係の継続はもちろん、多様性の確保や労働安全活動、障がい者雇用、人権を尊重した行動の促進などに取り組んでいます。

ベテラン社員の技術・技能を継承するため定年退職者の再雇用制度を推進

JFEグループは、60歳の定年退職後も継続的に働ける再雇用制度を設けています。これはベテラン社員が培ってきた貴重なノウハウや経験を長く活かす狙いもありますが、若手や中堅社員を指導する先生役として技術・技能を継承してもらおうという目的もあり、経験に裏打ちされた実践的な指導が大きな成果をあげています。また、再雇用制度は公的年金受給開始までの定年退職後のライフプランにも、大きな役割を果たしています。



技能伝承

小さな成功体験を積み重ねさせ向上心を引き出すことが大切だと思います。

進学を諦めて入社したこともあって、覇気の無い社員でしたが、入社3年目に建設担当に抜擢されたことが転機になりました。覇気の無い社員によくチャンスくれたと思います。そんな経験から、若手の育成には成功体験を通じて向上心を引き出すことが重要だと考えます。私たちが仕事で使う「標準」は、先輩たちの試行錯誤の成果であり、貴重な財産です。これをベテランが後輩に語り継ぐことが大切なんです。



JFEスチール
東日本製鉄所 労働人事部
千葉労働人事室
細川 忠昭

1970年入社以来、一貫して焼結設備およびコークス設備の保全業務に従事。2008年より現職にて教育担当。1999年科学技術庁長官賞、2007年千葉県「現代の名工」、2009年「現代の名工(国の卓越した技能者)」受賞。自治会長活動歴21年、民生委員・児童委員活動歴19年など、社外や地域の活動にも積極的に取り組んでいる。

地域の町内会の皆様と一緒に“ふれあい祭り&100年”を開催しました。

JFEスチール東日本製鉄所の周辺地域ではお祝いムードが隔々々で行きわたり、本番前から“ふれあい祭り&100年”が社員と地域の方たちの合言葉になりました。「地域のみんに少しでも美味しいものを食べてもらおう」と各町内の皆様は大変苦労されていましたが、その甲斐あって当日は超満員、完売となりました。また、町内会役員の皆様からは「JFEのおかげで地域全体の連携が広がり、大きな輪ができたことに感謝します」というお言葉をいただき、大変嬉しく思いました。



JFEスチール
東日本製鉄所(京浜地区) 総務部総務室
福永 武義

全国7ヵ所の製造拠点を開放し地域の皆様をご招待

JFEグループは、毎年、製造拠点で各種イベントを開催し地域の皆様をご招待。日ごろの感謝の気持ちを表わすとともに、実際の操業の様子や施設の見学を通して工場への理解を深めていただいています。2011年度は、全国7拠所で開催し、約42万8,000人の方にご来場いただきました。今年、JFEスチール東日本製鉄所(京浜地区)は開設100年



ふれあい祭り

を迎えます。今後も地域社会の一員としての責任を果たし、地域の発展に貢献していきます。

現地スタッフとの異文化交流を通して大きく成長してくれることを期待しています。

新人4名を含む20名の超若手社員が海外で勤務しています。そのうち3名の女性もパワフルに営業活動などを行っています。留学や研修と異なり、現地スタッフとの連携などで大変な思いもしているようですが、その分成長スピードは速いと期待しています。異文化の中で、若い時期だからこそ感じ取れることをしっかり吸収した上で、仕事の上でも自分なりの成果を残してほしいと思います。



JFEエンジニアリング
人事部人事室長
原岡 恵子

海外での勤務や留学の機会を増やしてグローバル人材を育成

海外事業の拡大に対応するため、グローバル人材の育成が急務です。2011年度JFEスチールは海外留学や海外研修に50名程度派遣しました。JFEエンジニアリングでは入社3年目までの若手社員20名が海外赴任中です。海外の提携先との人材交流の機会も増え



JFEエンジニアリング
ヤンゴン支店

ており、文化や考え方の違いを通じてグローバルな視点で物事を考える力を磨いています。

JFEグループの震災復興支援

—安全・安心な街づくりに向けて—

JFEグループは、東日本大震災直後から技術者派遣や義援金の拠出、被災地支援ボランティア活動など、さまざまな形で復旧のお手伝いをしてきました。また、逼迫する電力需給状況に対応し、最大限の節電努力や自家発電設備による電力会社への電力供給の協力、更には太陽光発電やエンジン発電などによる分散型電源の開発にも力を注いでいます。

今後も、インフラ整備に必要な資材の供給や防災・減災に役立つ鋼構造物の設営、震災がれきの処理施設の建設など、幅広く震災復興に貢献していきます。

仙台市向けの震災廃棄物焼却炉を運転開始

JFEエンジニアリングは、仙台市が市内3地区に設置する震災廃棄物処理用の仮設焼却炉のうち、同市蒲生地区向けの仮設焼却炉を2011年5月に受注し、これまで建設を進めてきました。このたび、ほかの2地区に先行して本施設が完成したため、9月1日から焼却運転を開始しました。

本施設の建設にあたって、同社は長年培った廃棄物処理に関する技術と経験をもとに徹底的に工期を短縮し、着工からわずか3カ月余りで焼却炉稼働を実現しました。また、本施設の運転・管理業務も受託しており、すでに施設の建設から運営まで、全面的に震災廃棄物処理を支援しています。

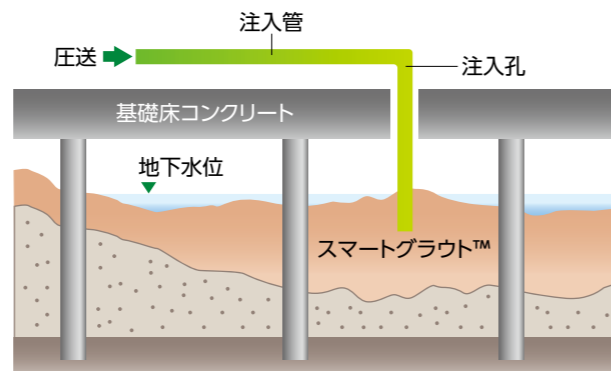
約2,500tと言われる大量の震災廃棄物が発生した沿岸被災地域では、復興再建に向けて一日も早い震災廃棄物の処理が待ち望まれています。JFEエンジニアリングは、今後、仙台市以外の被災地域でも本格化する震災廃棄物処理に対しても積極的に協力していきます。



鉄鋼スラグを活用した地中空洞修復工法を開発

東日本大震災に伴い発生した液状化現象によって、建物の基礎床と地面の間に空洞部が生じる事例が多数発生しています。空洞部は、床版や杭などの基礎に陥没や亀裂などの悪影響を及ぼすことから、空洞部を何らかの形で埋める必要があります。JFEスチールは、この対策に鉄鋼スラグを活用した地中空洞修復工法「スマートグラウト™」を開発しました。

本工法は、気泡を混ぜることで流動性を高め、空洞部の充填性を向上させることに特徴があります。施工性に優れており、すでに製鉄所内の稼働中の建物に適用しています。



スマートグラウト™

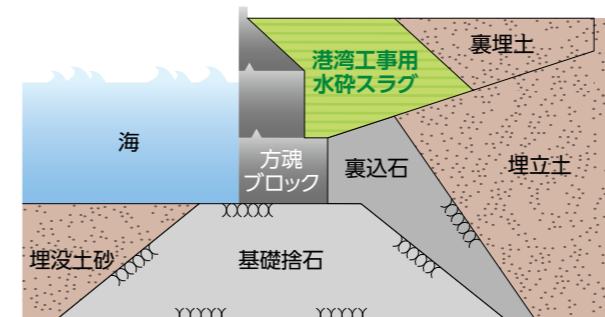
港湾施設の早期復旧支援

JFEスチールは、東日本大震災によって港湾機能が損なわれた岩手県岩泉町の小本港復旧のために、港湾工用水砕スラグを寄付しました。岩泉町とは以前から事業で深く関わりがあり、「町民の皆様がもとの生活に戻るのに何が一番必要か」を岩泉町と話しあった結果です。

復旧用の資機材などが逼迫している中、従来から港湾施設の整備に使われている資材を提供することで、早期に港湾機能回復をはかり、地域の早期復旧・復興を期待したものです。

今回の港湾工用水砕スラグは、軽量で自立性があることから、護岸の裏込めに使うと、従来の天然材の場合よりも護岸の安定性がよくなり、より安全な護岸となります。

今後は、ほかの地域にも広く展開して行くとともに、復興後の発展を見据えた街づくりにも貢献していきます。



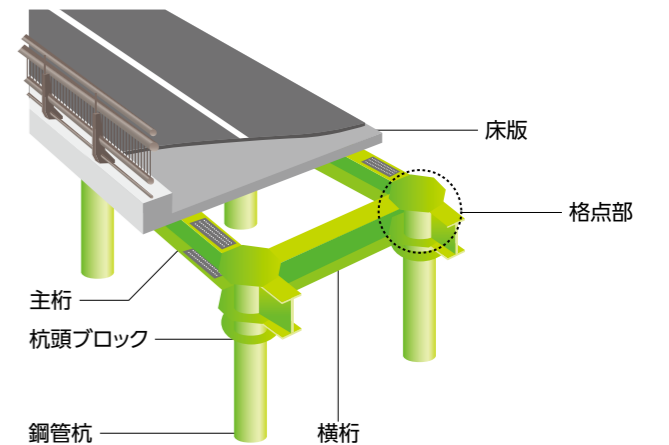
港湾工用水砕スラグ

津波対策構造、津波避難施設などをJFEグループとして提案

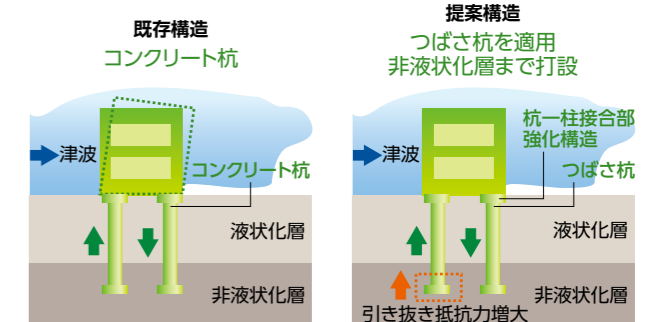
JFEスチールは、東日本大震災からの復興に向けた社会インフラ構造として、すでに多数の実績がある建築向け耐震構造用制震ダンパーや山岳道路の災害復旧工法であるメタルロード工法に加え、鋼管杭、鋼矢板を活用した津波対策構造、津波避難施設などをJFEグループとして提案しています。

今後もJFEグループの総力を結集し、製品を通じた震災復興支援に貢献するとともに、安全・安心な街づくりに向けた活動を続けて行きます。

メタルロード工法



鋼管杭(つばさ杭)を活用した津波対策





上智大学経済学部教授
上妻 義直氏

今年、創立10周年を迎えたJFEグループでは、持続的な成長に向けた企業体質の確立と事業活動を通じた社会貢献をめざして、「CSR推進とコーポレート・ガバナンス」「環境経営の徹底」「ダイバーシティの推進」「財務体質の強化と株主還元」の4施策を掲げ、その実行をトップメッセージで宣言しました。そこで、本意見でも、それらの施策ごとにJFEグループのCSR活動を評価しました。

1. コンプライアンスの徹底

JFEグループには毎年のように独禁法違反事例に苦慮してきた経緯があります。これを根絶するために、経営トップの決意表明、反復的なコンプライアンス研修、独禁法違反の懲戒事由化、同業他社との接触禁止、企業倫理ホットラインの設置、従業員意識調査など、PDCAを駆使して防止対策を徹底してきました。その結果、ここ数年は不幸な事例の発生が見られず、これらの対策は効果を上げているように思われます。

また、2012年4月公表の第4次中期経営計画では、海外投資比率を50%程度に高めることが明らかにされました。贈収賄等の未然防止は世界的なCSR課題になっていますが、海外展開の拡大に備えて、JFEグループでも腐敗防止に関する研修プログラム等の運用状況について開示されることを期待します。

2. 環境経営の徹底

「3つのエコ」による温暖化対策に見られるように、JFEグループの環境経営は、事業エリアだけでなく、環境配慮製品の開発や環境技術の海外移転によってバリューチェーン全体で展開されており、さまざまな省エネ・省資源技術がグ

ローバルな環境負荷低減に貢献しています。環境経営は4施策の中で最も進んだ分野ですが、これらのアプローチが財務業績の向上とも結びつくように、CSRマインドと事業戦略の統合をさらに進めて、社会との共有価値を一層高めていただきたいと思います。

3. ダイバーシティの推進

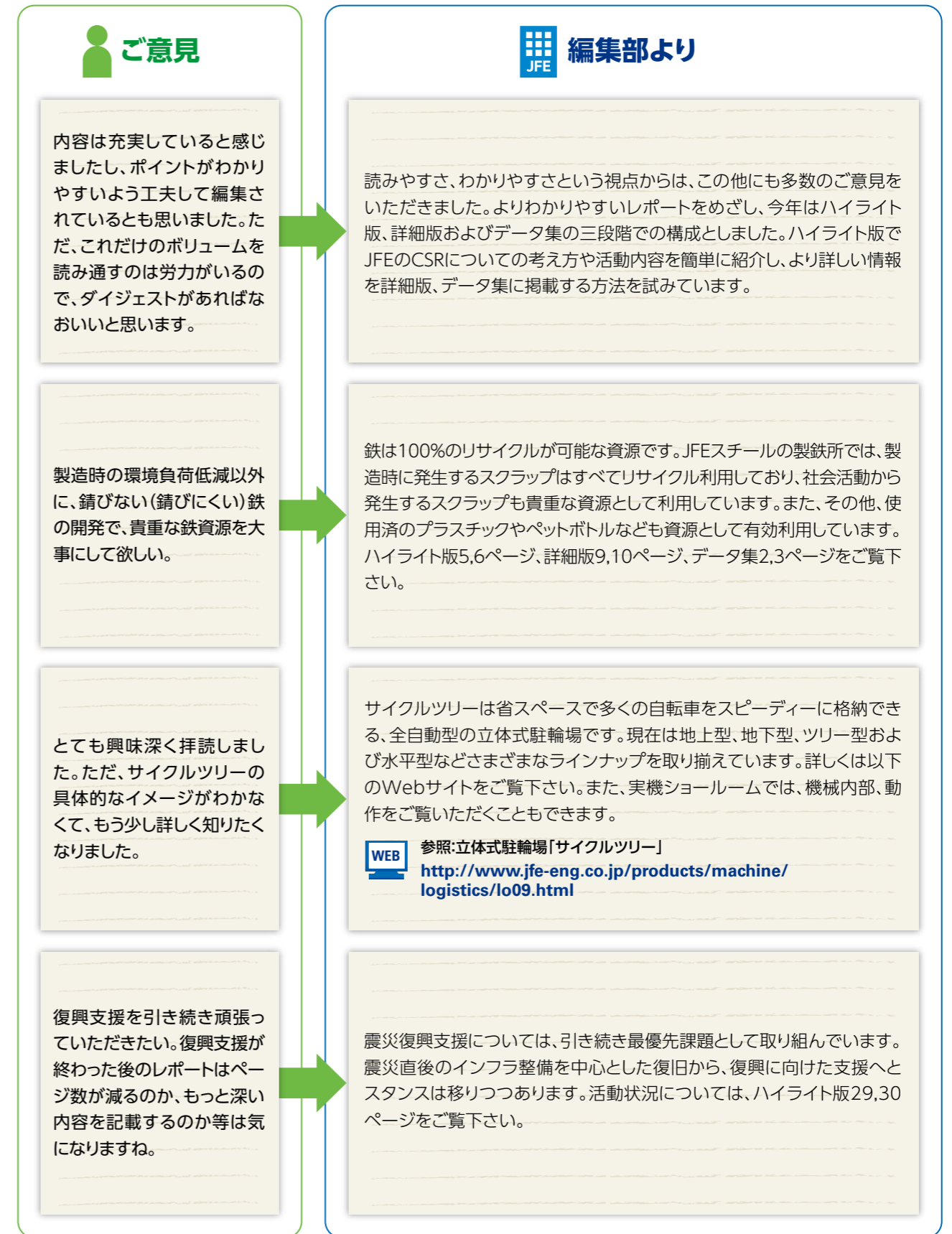
JFEグループでは比較的新しい重点分野ですが、2012年1月にJFEスチールで「ダイバーシティ推進室」が設置されて、本格的な取り組みが始動しました。機会均等やワークライフバランスに関する制度については、JFEスチールを中心に拡充されつつありますが、今後はグループ全体への普及と情報開示面での対応が新たな目標になると考えられます。また、昨年指摘したユニバーサル造船の障がい者雇用率は、2011年4月設立の特例子会社によって法定雇用率を超え、グループ全体の障がい者雇用率に一定の区切りがつかしました。

4. 株主に対する施策

株主施策として注目されるのは全国規模で実施される工場見学会です。製鉄所や造船所だけでなく家電・ペットボトルのリサイクル工場が見学可能であり、JFEグループの事業内容を市民の立場で俯瞰的に見ることが出来ます。機関投資家や証券アナリストに対するIR活動とともに重要なコミュニケーション手段になっていますので、提供機会の拡大も含めて、今後の維持・発展が期待されます。

JFEグループの持続性報告は、昨年度のCSR報告書体制の確立を経て、今年度はハイライト版、詳細版、環境データ集の3部構成になり、さらに統一感を増しました。今後も継続的に情報開示の質を高めていただきたいと思います。

昨年度版のCSRレポート(環境報告・社会性報告)に対して、たくさんの貴重なご意見をいただきました。ここでは、読者の皆様からのご意見・ご感想の一部をご紹介します。

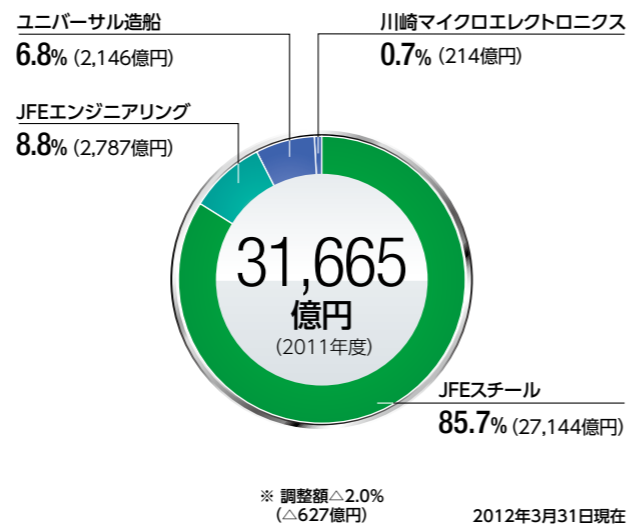


グループ概要

名称(商号) JFEホールディングス株式会社
 [英文名称:JFE Holdings, Inc.]
本社所在地 〒100-0011
 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
電話 03-3597-4321(代表)
設立年月日 2002年9月27日
資本金 1,471億円
株主数 309,395名
URL <http://www.jfe-holdings.co.jp/>

JFEホールディングスは、持株会社として、JFEグループの戦略機能を担うとともに、リスク管理業務と対外説明責任を果たしています。また、事業会社は、事業分野ごとの特性に応じた最適な業務執行体制により、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。

グループ総売上高構成比



鉄鋼事業

JFEスチール株式会社
 本社(東京都千代田区)
売上高 27,144億円
従業員数 42,571名

世界トップクラスの鉄鋼一貫メーカーです。東西2大製鉄所体制による高い国際競争力を持ち、世界有数の技術と商品開発力を活かしたオンリーワン・ナンバーワン商品および各種高付加価値商品を製造・販売しています。

エンジニアリング事業

JFEエンジニアリング株式会社
 本社(東京都千代田区)／横浜本社(横浜市)
売上高 2,787億円
従業員数 7,443名

コアとしている都市環境・エネルギー分野では、多様な資源をクリーンエネルギーとして有効利用するための技術を提供しています。また、橋梁などの鋼構造や産業機械の分野にも展開しています。

造船事業

ユニバーサル造船株式会社
 本社(川崎市)
売上高 2,146億円
従業員数 3,647名

5事業所、1技術研究所体制で、タンカーなどの大型一般商船や護衛艦、掃海艇などの各種艦艇、砕氷艦の建造、修繕を手がけています。

編集後記

一昨年度まで経営レポートを構成する一部として編集、発行されていた、環境および社会的側面について、内容をより充実させるため、昨年度よりCSR報告書としての制作、発行をはじめました。

今年度は、CSRコミュニケーションツールとしての機能をさらに強化させるため、ハイライト版、詳細版およびデータ集の構成といたしました。ハイライト版では、JFEグループのCSRについての考え方、取り組みを読者の皆様によりわかりやすく理解いただくことを念頭におき、主要な活動内容についてイラストを多用し、コンパクトにまとめる構成

としています。詳細版は、環境および社会的側面の活動状況をより具体的に表現する構成としており、環境面の更に詳しいデータについてはデータ集に過去のデータと比較可能な形で表現しています。

また、昨年度も読者の皆様から多くのご意見をいただいております。今年度も読者意見のコーナーにその一部と対応状況について紹介させていただいております。

これからも読者の皆様からの忌憚なきご意見をいただきながら、さらに充実したものにして行きたいと考えております。